

## 西濃農林事務所の普及活動状況

平成 30 年 4 月 30 日現在

### 今月の重点活動

#### ■なし 後継者・担い手育成～第1回「梨塾」を開催～

4月16日、大垣市曾根町において大垣市ナシ生産連絡協議会の主催により、梨生産者の後継候補者7人を対象として梨塾が開催された。大垣市の梨園は市街地に点在しており、農家の高齢化、担い手不足により縮小傾向にあるが、産地の維持及び後継者の育成を目的として年間5回の計画で塾を開催する。第1回は室内講義と現地実習が実施され、摘花、病害虫防除等について学習した。また、新技術である根圏制御栽培法のほ場において技術の概要を説明し、塾生は新技術に関心を示していた。

梨塾は、大垣市、JAにしみの、農業革新支援専門員など関係機関が一丸となって本年度より開催している。農業普及課では、梨塾のカリキュラム提案の他、現地実習での指導と情報提供及び関係機関との連絡調整を行い、梨塾の円滑な活動を支援する。



【現地実習の様子】

### 多様な担い手づくり

#### ■新規就農者 岐阜県就農支援センター入所式、第1回西濃地域就農支援会議

4月11日、県就農支援センター（海津市）において、冬春トマト第5期研修生4人の入所式が開催された。式では、研修生の紹介と激励の言葉の後、各研修生がトマトづくり、産地づくり等に対する抱負を発表した。その後引き続き、第1回就農支援会議が行われた。第5期生の出身は、県外1人、県内3人でいずれも海津市内での就農を希望している。会議では、研修生それぞれの計画、思いを話してもらい、意見交換を行った。

農業普及課は関係機関と連携して、就農に向けた課題及び問題点を解決しつつ、技術習得や就農計画の作成等を支援する。



【期待と不安の入所式】

#### ■水田農業の担い手育成 大垣市：（農）大垣南、（農）静里営農

（農）大垣南は4月21日に上半期役員会を開催し、今年の生産事業計画について協議した。取組み品目は主食用米、飼料用米、飼料用稲、水稻苗等で作付規模、使用資材等を打ち合わせた。農業普及課からGAPの取組みを提案した他、水稻品種「ほしじるし」について情報提供した。

（農）静里営農は4月24日に運営会議を開催し、今年の生産計画について協議した。生産品目は主食用米、小麦、大豆、ブロッコリーである。農業普及課からは小麦赤かび病の適期防除と水稻の初期管理、GAPの取組みについて指導した。

#### ■農業婦人クラブ 西南濃地区農業婦人クラブ連絡協議会総会及び研修会

4月17日に大垣市西部研修センターにおいて、西南濃地区農業婦人クラブ連絡協議会総会及び研修会が開催された。研修会では、大垣市で栽培された大豆とおからを使った豆腐とスイーツづくりが行われた。会員は、普段の活動では作らない豆腐の調理を行う中で、自分たちの活動に生かせる点を話し合いながら受講していた。

農業普及課は研修会の組み立て等、行事の開催を支援した。



【豆腐づくり研修会】

## 売れるブランドづくり

### ■神戸町営農連絡協議会 小麦赤かび病防除指導とGAP導入の支援

4月12日に神戸町営農連絡協議会が開催され、土地利用型担い手を対象に研修会が行われた。農業普及課は研修会の中で、小麦の赤かび病適期防除の指導やGAPの進め方についての支援を行った。GAPについての研修会では、栽培管理を中心に各生産者らで見直しを行い、特に農薬散布時のリスクを軽減させるための方法等について、各生産者らが実際に行っていることなどを確認した。今後研修会を重ねていく中で、栽培管理についてだけでなく、労働環境なども見直すことで、経営の安定化につなげられるよう支援を行う。

### ■甘長ピーマン 海津甘長部会 出荷始まる

甘長ピーマンハウス促成栽培の出荷が3月22日から始まり、L品が220円と平年並みの単価で推移している。出荷量は徐々に増えつつあるが、本格的な出荷は5月上旬以降となる見込み。なお、露地トンネル栽培は4月15日から、露地栽培は5月上中旬から定植が行われる。30年産は育苗期の低温による生育遅れ、定植前後の高温、その後の低温と気象の変動が激しく、栽培管理に苦慮している。本ぽにおいて活着不良、うどんこ病、アブラムシなどの発生が確認されており、農業普及課では温度・土壌水分管理の徹底と病虫害防除対策について啓発を行っている。現地では、耕種的防除法による株枯れ対策、天敵温存作物を活用した天敵による防除法について実証ほを設けて検討していく。

### ■GAP JAにしみの興農社が、JGAP認証を取得！

(有)JAにしみの興農社は大垣市内で水耕レタスを生産しており、今月、JGAP認証を取得した。西濃管内では初の第三者認証GAPの取得となる。栽培ハウスは、生産から出荷に至るまで、マニュアル化・見える化による工程管理がなされ、農業用資材等の管理状況及び各種記録書類の保管も良好である。生産されたレタスは、隣接するファーマーズマーケットで購入可能である。JAにしみの興農社は、岐阜県GAP確認制度にも申請しており、西濃管内におけるGAPのモデル農場として、地域を牽引していくことが期待される。

農業普及課は、岐阜県GAP確認制度の審査を3月に行った他、今後もJAにしみのと連携して活動支援を行う。

## 住みよい農村づくり

### ■関ヶ原町そば生産組合 春播きそばの生育状況

関ヶ原町では、そばのゴールデンウィーク開花を目指し、関ヶ原町そば生産組合共同ほ場で3月26日に「常陸秋」を播種した。播種直後は気温が高く、発芽は順調であったが、その後低温に遭い葉が黄化し、生育の遅延が見られた。農業普及課はJAと協力し、4月10日に低温対策としてほ場の一部に不織布によるべたがけ区を設置し、生育改善を図った。4月16日にそば生産組合による共同ほ場の草刈りを実施した際、生産者に対し上記実証区の説明を行い、保温効果の確認を行った。

